

評価実施 令和 5 年度	事務事業マネジメントシート						
事務事業名	長寿慶祝事業				主管部	健康福祉部	主管課 高齢者支援課
政策名	4 保健・福祉						
施策名	基本施策10 高齢期の充実した生活への支援						
予算科目	会計	款	項	目	事業コード	法令根拠	国立市長寿祝金支給条例
	一般	03	01	02	0116100		
事業期間	単年度のみ				<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返	期間限定複数年度 (平成8年度 ~ 年度)	

事務事業の概要

事業内容	活動実績及び事業計画
<p><事業内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・88歳、99歳お祝い 9月15日において市内に住居登録され、年度内に88歳、99歳に到達する方に記念品(1万円相当)または祝い金(1万円)を贈呈することにより長寿を祝う。 ・100歳お祝い 当該年度の誕生日に100歳に到達した方のもとへ市長が訪問し、記念品(3万円相当)を贈呈することにより長寿を祝う。 ・100歳以上高齢者調査 国及び都からの依頼に応じ、100歳以上の市民人数などの調査を実施し、報告する。 	<p>令和5年度の実績(令和5年度に行った主な活動を具体的に記載)</p> <p>例年どおり、対象者の方へお祝いを行った。 ※88歳:440名、99歳:27名、100歳:21名</p> <p>令和6年度以降の事業計画(令和6年度以降に計画している主な活動を具体的に記)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業費削減の観点より、試行的に88歳のお祝いを記念品(1万円相当)贈呈とする。 ・人生100年時代の到来及び国(都)が行う同事業の兼ね合いから、現況及び今後を見据えた見直しを行う。

1 現状把握の部(PLAN)(DO)

(1) 事務事業の目的
この事業を実施する経緯・背景・課題等(なぜこの事業を行うのか)
【経緯・背景】昭和49年に国立市敬老金支給条例施行規則を改正し、平成8年に国立市長寿祝金支給条例の実施に伴い、敬老と長寿を祝うために開始された。 【課題等】事業発足当初と比較して、平均寿命は延伸しており、今後ますますお祝いの対象となる方は増加するため、財政面での負担増が見込まれる。
事業の対象者及び対象とした理由(できるだけ細かくセグメント化する)
【対象者】88歳、99歳お祝い:9月15日において市内に住居登録され、当該年度に88歳、99歳を迎える方。 100歳お祝い:当該年度の誕生日に100歳を迎える方。 【対象とした理由】高齢者の慶祝事業として、節目のお祝いをするために特別な要件を設けることなく設定している。
この事業による直接的な効果及び施策の成果向上への道筋
高齢者が、住み慣れた地域で生きがいを持って、安心して住み続けることができる。

(2)各指標等の推移

項目	名称	単位	令和3年度 (決算)	令和4年度 (決算)(A)	令和5年度 (決算見込み)(B)	令和6年度 (令和6年度目標 値)	目標年度 (目標値)	差額 (B)-(A)
① 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)	99歳記念品(88歳祝金)を受け取った方の人数	人	384	410	467			57
	100歳記念品を受け取った方の人数	人	12	17	21			4
② 対象指標 (対象の大きさを表す指標)	年度内に88歳、99歳となる人数	人	386	412	477	496		65
	当該年度の誕生日に100歳を迎える人数	人	15	19	25	27		6
③ 成果指標 (事務事業の達成度を表す指標)	70歳以上でこれからも国立市に住み続けたいと考える方の割合	%	88.6	-	86.0	87.0		
		%						
④ 上位成果指標 (施策の達成度を表す指標)	市が高齢者の相談や支援を充分に行っていると思う市民の割合	%	88.0	88.1	87.9	85.3		-0.2
		%						0

(3)事務事業コストの推移

項目	単位	令和3年度 (決算)	令和4年度 (決算)(A)	令和5年度 (決算見込み)(B)	令和6年度 (当初予算)	目標年度 (目標値)	差額 (B)-(A)	
支出内訳	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	0
		延べ業務時間	時間	125	125	125	125	0
		正規職員人件費計(C)	千円	500	500	500	500	0
		会計年度任用職員従事人数	人	1	1	1	1	0
		延べ業務時間	時間	20	20	20	20	0
		会計年度任用職員人件費計(E)	千円	30	30	30	30	0
		人件費計(F)	千円	530	530	530	530	0
	事業費	物件費・維持補修費	千円	239	489	614	4,265	125
		扶助費	千円					0
		補助費等	千円	3,840	3,850	4,400		550
		繰出金	千円					0
		その他(普通建設事業費・公債費・投資及び出資金等)	千円					0
	事業費計(G)	千円	4,079	4,339	5,014	4,265	675	
歳入	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
	都支出金	千円	0	0	0	0	0	
	地方債	千円	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	0	
		歳入計(H)	千円	0	0	0	0	0
	事業費における一般財源 (G)-(H)	千円	4,079	4,339	5,014	4,265	675	

2 評価の部(CHECK)

必要性評価	① 事業の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input type="checkbox"/> 妥当である ⇒【以下に理由を記入】 高齢者を敬い、慶祝することについて、行政のみが担い手となるべき理由はない。民間事業者や受益者(高齢者)自らが企画運営を担うことも考えられる。
	② 事業の有効性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 十分有効的である ⇒【以下に理由を記入】 高齢者を敬い、長寿をお祝いする意を示すことには及んでいる。
	③ 事業の効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input type="checkbox"/> 十分効率的である ⇒【以下に理由を記入】 平成26年3月に条例を改正し、平成26年度から77歳への支給を廃止したことにより、事業費の削減を図っている。令和4年度より、99歳のお祝いを祝い金から記念品に改めたことで更なる事業費の削減を行っている。令和6年度は対象者が多い88歳のお祝いについても記念品とする試行運用を企画し、一層の事業費削減に着手した。100歳のお祝いについては、国(都)も記念品を贈呈する慶祝事業を行っている。よって、現況にあわせて見直しを検討する余地はあると考える。
	④ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【以下に理由を記入】 ⇒3 改革・改善方向の部に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【以下に理由を記入】 88歳、99歳、100歳と節目の年齢に到達される方について、全員が給付されるという点で公平である。
⑤この事業の対象者からの意見(想定している効果と対象者の感じている効果のギャップはあるか?)		
これまでに100歳訪問の対象者より、市長が来ていただけるのはとても嬉しい、感激した、などのコメントを頂戴している。また、88歳、99歳のお祝いを受領された方のうち、毎年数名から御礼状を頂戴している。		
⑥この事業は施策の成果向上や公益の増進に役立っているか?		
高齢者を敬い、慶祝することにより、高齢者が地域に愛着を持ち、生きがいを持って住み続けるという意欲向上につながるため、高齢者福祉の向上に寄与している。		

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(ACTION)

(1) 評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)
① 必要性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	お祝いの対象者年齢及びお祝いの方法を適宜見直すことで、事業費の削減を行ってきた。しかしながら、事業発足当初と比較して、平均寿命は延伸しており、今後ますますお祝い対象者は増加することが予想される。このことから現況及び今後を見据え、事業目的を実現するための慶祝事業のあり方について検討する必要がある。
② 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
③ 効率性	<input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	
④ 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	
(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・具体的に記載		
<input checked="" type="checkbox"/> 改善策を検討・実施する ⇒【以下に具体的に記入】 <input type="checkbox"/> 現状維持(担当課評価がすべて適切である場合)		
必要性改善	【改善策】 地域包括ケア計画の考えに即し、行政主体による既存の慶祝事業ではなく、市民主体または市民と連携した慶祝企画としての見直しを検討する。	【改善策を実施した場合の効果】 大会の企画運営に係る経費が削減される。また、地域単位でのつながりが強化される。
効率性改善	【改善策】 100歳のお祝いについては、国(都)も記念品を贈呈する慶祝事業を行っているため、市としてのお祝いは費用の掛からない表敬訪問形式など財政負担を考慮した方法を検討する。	【改善策を実施した場合の効果】 毎年100歳記念品(3万円相当)を手配する費用が削減される。
	【改善策】	【改善策を実施した場合の効果】
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策		
事業の見直しを行ううえで、行政目線だけでなく、市民目線での納得性及び妥当性の整理。		
(6) 令和7年度予算編成に向けて		
縮小	【予算規模】 【取組方針】 平均寿命は延伸しており、毎年度対象者が増加している状況にある。また、百歳高齢者への記念品贈呈については、国・都でも実施しているという状況を踏まえ、本事業においては敬老大会事業など他の事業と統合整理する等、より良い慶祝事業のあり方を検討していく。	